

2023 年度 自己点検・自己評価報告書

学校法人 古沢学園 都市学園大グループ
広島医療保健専門学校

本校の自己点検・自己評価項目は「専修学校における学校評価ガイドライン」に示されている評価項目を参考に作成したものである。

調査対象 : 広島医療保健専門学校 教職員
対象期間 : 令和5年4月1日～令和6年3月31日
評価方法 : 5段階評価 (5:適切 4:ほぼ適切 3:普通 2:やや不適切 1:不適切)

1. 学園理念、教育方針、教育目標、教育計画

	評価項目	自己評価
1	学園理念は時代の変化に対して有効・適切ある。	5.0
2	教育目標や教育計画は建学の精神や教育方針に基づき、社会的要請や学生の実態に応じたものになっている。	5.0
3	教育目標や教育計画はその達成の程度を評価するシステムが確立し、実施している。	3.7

① 課題

達成度の評価システムは確立されていない

目標、計画の立案が可能となってきている。

量的な評価、質的な評価ともに可能となるよう評価方法の検討も必要。

② 今後の改善方策

評価システムの確立来年度より導入

目標、計画したものに対して、評価を継続していく。

2. 教育課程の編成

	評価項目	自己評価
4	教育課程の編成にあたって、基本的な方針が示されている。	4.8
5	教育課程の編成に関して、法令が遵守され、教育目標や教育計画が反映されている。	4.8
6	教育課程の編成に教員の意見が反映されている。	5.0
7	教育課程の編成に当たって、単位認定科目が検討されている。	2.2
8	教育課程の編成にあたって、社会的情勢の変化や就職先の要望に対応している。	2.2
9	教育課程の編成にあたって、法律に準じて区分され、各分野に必要な科目検討が行われている。	5.0
10	教育課程が大学併修科目に対応している。	1.0

① 課題

教育課程の編成において実習地・就職先からの要望の聴取はできていない

学年制であり、単位制の検討ができておらず、大学併修科目に十分対応できない。

理学療法士国家試験受験資格取得には十分だが、社会情勢の変化に十分対応しているとは言えない。

就職先に希望については聴取できていない

② 今後の改善方策

SV 会議などの機会をとらえて、当校の教育方針・過程を検討する場を設ける（中期計画）

単位制も含め検討していく。

就職先・実習地から情報収集してくことも検討していく

3. 教育課程の実施

	評価項目	自己評価
11	年間の授業時間数が十分に確保されている。	5.0
12	授業時間数（単位）数が法律に従い、各学年、各期に偏りがないように調整されている。	3.6
13	年間の行事が計画どおり実施されている。	5.0
14	各学年の学生人数は法律の基準に従い、定数を確保されている。	1.2
15	各教員の授業時間数が法律に従い、かつ過剰にならないよう調整されている。	3.2
16	学内研修（オリエンテーション、三瓶山研修、入学式、卒業式）が計画通り実施されている。	5.0
17	前期・後期試験期間が十分に確保され、計画通り実施されている。	5.0

① 課題

2年生のカリキュラムが荷重になっており、改訂を要する
現カリキュラムでは授業時間数過剰。新カリキュラムに変更後、評価が必要。
定員充足率は低い

② 今後の改善方策

2024年度入学生よりカリキュラム変更
定数確保に向け、現在行っている対策（高校訪問、オープンキャンパスなど）の効果を検討する必要がある。

4. シラバス

	評価項目	自己評価
18	シラバスに全科目掲載されている。	4.4
19	シラバスの作成に当たって、内容等が学科内、教員間で十分検討されている。	4.0
20	学生が授業を受けるのに必要な内容（授業形式、開設時期、授業目標、授業内容、成績評価、テキスト等）が記載されている。	5.0
21	シラバスを学生、教員に配布され、内容について説明を十分おこなっている。	4.8
22	シラバスに記載されている内容が適切に実施されている。	4.0

① 課題

② 今後の改善方策

5. 学習指導

	評価項目	自己評価
23	教員は学生に理解できる授業を目指し、授業の向上に努めるとともに専門性の高い教育を実施している。	4.8
24	学習の遅れがちな学生や欠席（欠課）者を対象に特別指導が実施されている。	2.4
25	学生に対する各種ガイダンスが充実している。	2.8
26	臨床実習施設が法律に従い、かつ十分に確保されている。	5.0
27	臨床実習計画に従い実習が実施されている。	4.8
28	体験実習が計画的に実施されている。	4.8
29	高卒者の基礎学力向上対策が計画・実施されている。	3.0
30	演習・実技が計画的に実施されている。	5.0

① 課題

入学前後の学習・低学力者への補習等が計画的には行われていない

高卒者の学習への向き合い方について介入するが、基礎学力向上が感じられるまで時間がかかってしまう。

低学力者の個別指導が十分にはできていない

② 今後の改善方策

他校の事例などを参考に高大接続のあり方を職員研修などで検討していく

高校からの切り替え方を検討していく必要あり。

低学力者の個別指導や勉強方法の指導などを充実していく

6. 成績・評価

	評価項目	自己評価
31	成績評価の基準が明確で、事前に学生に示されており、総合的な観点から客観的に評定されている。	4.0
32	学生の出席状況の管理が適正に行われている。	4.8
33	出席状況を各担任が把握し、欠席（欠課・遅刻・早退）が認められる学生に対して指導を充分行い、また保護者と連絡を取って指導している。	4.0
34	成績の管理が適切に実施されている。	3.4
35	臨床実習前、卒業前には計画的に試験が実施され、状況に応じて指導している。	5.0
36	臨床実習施設との連絡、訪問、指導が実施されている。	5.0
37	臨床実習後の評価表が管理・保管・整理されている。	4.4

① 課題

成績関係の書類保管に不十分な点がある

出席情報の管理を行っていない学生がいる。

② 今後の改善方策

早急な書類保管場所の確保
出席情報の確認方法の検討

7. 教科書・教材・施設設備

	評価項目	自己評価
38	教育機器、機材が法律に従い整備されており、適切に活用されている。	3.0
39	教育機器、機材の点検・保守が適切に行われている。	3.0
40	教科書、テキスト類の選定は適切に行われており、学生が理解しやすく利用しやすいものが選定されている。	5.0
41	教科書以外に必要な資料が配布されている。	4.8
42	授業に必要な視覚的教材などを利用している。	4.2

① 課題

視覚的な教材の活用頻度が少ない。
教育機器の点検・保守が不十分

② 今後の改善方策

視覚的な教材を必要に応じて活用していく。
学年末には機器の点検・確認を行う

8. 資格取得と検定対策指導

	評価項目	自己評価
43	国家試験のための対策が計画的・組織的に行われており、成果を上げている。	4.0
44	卒業後、資格未取得者の援助、指導が行われている。	3.0
45	模擬試験の作成・実施状況に対して組織的に協力されている。	4.0

① 課題

国試対策のロードマップの策定にまで至っていない
個別性も必要だが、個別対応が中心となり、全体的な方針を詰めていく必要がある。
資格未取得者の援助が十分には行えていない

② 今後の改善方策

4年間での流れを教員・学生ともに十分認識できるよう、道筋を立てていく。
資格未取得者に対しての対応を検討

9. 進路（就職）指導

	評価項目	自己評価
46	就職のための指導、模擬面接、個人相談が実施されている。	3.8
47	就職のための各種資料、求人票が整理、管理され、学生が閲覧できる状況になっている。	4.2
48	求人に対する問い合わせに適切に対応し、病院・施設等の就職担当者との連携を図っている。	4.0

① 課題

就職のための指導ができていない

② 今後の改善方策

就職活動や方法などを HR で実施していく

10. 生活指導

	評価項目	自己評価
49	学生の授業規律をはじめ、学内での基本的な生活習慣やマナー、しつけの教育が行われており成果を上げている。	4.0
50	学生の悩みや相談を受ける体制が整っており、相談する場所の確保など、プライバシーに配慮できて指導されている。	2.0
51	非行・事故の未然防止や怠学傾向のある学生の早期発見体制が整っており、保護者と密接な連携をとるなど、きめ細やかな指導が行われている。	4.0
52	学生の健康管理状況の把握、学業不振、問題行動などに対して教員間で情報交換し、適切に指導されている。	4.2
53	アルバイトの実態状況を把握し、学業との両立を図るための適切な指導、助言、保護者との連携が適切に実施されている。	4.0

① 課題

教員以外の相談窓口がない

相談窓口が教員のみであり、教員に対する悩みなどがあった場合に対処できない可能性がある。

いつでも相談できる場所の確保が不十分

相談できる場所がない

個人面談の場所が不十分

② 今後の改善方策

少人数学級ならではの声かけ、クラスの中での声の掛け合い、さらに安心・安全なクラスづくり。

面談室の確保

11. 健康・安全指導

	評価項目	自己評価
54	学校法に従い、学生の健康診断を定期的実施している。	5.0
55	健康診断にて再検査が必要な学生への情報提供、再検査への指導を適切に行っている。	5.0
56	臨床実習前、定期的に健康診断を実施し、必要に応じて再検査等の指導を行っている。	5.0
57	避難経路の情報提供を定期的実施し、防災・震災訓練を実施している。	2.7
58	各教室等の防災・管理者を作成して、教員が定期的に管理している。	1.5
59	学内及び通学中の事故等に対して適切に対応し、事故報告書を作成している。	2.2
60	損害賠償責任保険に加入し、実習中の事故等に適切に対応している。	5.0
61	突発的な重篤な病気の発症、事故後に医師の診断を受けた場合は、診断書の提出を指導し学校責任者に報告している。	4.2

① 課題

防災訓練・啓蒙活動が不十分

防災への心構えが十分ではなく、防災・減災への準備ができていない。

各教室等の防災管理はできていない

② 今後の改善方策

大学・工学院と連携して防災訓練・防火管理体制を実施する

12. 教員の状況

	評価項目	自己評価
62	常勤教員の年齢、性別、経験、専門性（所有資格）、指導力はバランスのとれた構成になっている。	4.2
63	教員は職務の重要さを自覚し、研鑽に努めるとともに、意欲的・積極的に職務を果たそうと努力している。	4.4
64	教員は望ましい人間関係を醸成し学生の人格を尊重して、保護者や社会の信頼と期待に応える努力をしている。	4.6
65	教員は学校の理念や教育方針を体し、協働体制と職場のモラルの高揚に努め、経営参加意識をもって学校の発展に寄与しようと努めている。	4.6

① 課題

② 今後の改善方策

13. 常勤と非常勤教員の配置状況

評価項目		自己評価
66	常勤・非常勤講師の構成比率は適切である。	5.0
67	非常勤講師の科目選択は専門性を配慮した構成になっている。	5.0

① 課題

② 今後の改善方策

14. 教員組織・運営

評価項目		自己評価
68	学校・学科が組織として教育活動を遂行しており、教育内容や教育方法の質の向上・改善に結びついている。	5.0
69	校務文書が組織として位置づけられ、全教員が職務を分担している。	2.0
70	諸会議が学校全体、各科ごとに計画的、効率的に行われ、報告・連絡・相談・調整がスムーズである。	5.0
71	各種委員会が設置され、学校運営が能率的に行われるとともに、学校間の連携、共通理解に役立っている。	2.2
72	諸会議の記録、管理・保管が徹底している。	4.3
73	臨床実習に必要な指導者との連携を図る会議が定期的を実施され、臨床実習受入に関して調節されている。	3.2
74	校長・学科長は校務運営のかなめとして教員に適切な指導助言をするなど、校内の潤滑油として機能している。	5.0
75	校務運営に必要な諸表簿の一覧と保存期間が定められており、文書管理・保存・改廃が適切に行われている。	2.3

① 課題

業務分掌が不十分

単科でもあり、委員会を作り対処する必要性が少ない。しかし、そのために境界が明確にならず、分掌が進まない。

委員会は設置していない

職員数に限りがあり所掌が明確でない職務が多い。

教員数の関係もあり、各種委員会は設置されていない。あわせて教務、総務の区別があまりない。

書類の管理する場所が少ない。

② 今後の改善方策

中期計画に従い分掌を進める

教職員が一体となって学科の教育活動を統一的に行う意識を学科会議など通じて醸成する

各種委員会の設置

学習機会を設ける。

15. 教員研修

	評価項目	自己評価
76	研修課程が年間計画に位置づけられ、研修の具体的な内容・方法等が明確にされて組織的な研修が行われている。	5.0
77	公開授業及び授業研究が組織的・計画的に行われ、関係教員の全員参加による研修体制が定着している。	5.0
78	学校全体で行われる各種研修会には積極的な姿勢で参加し、その成長が教育活動に反映されている	5.0
79	初任者に対する研修が組織的・計画的に行われ、教員相互の支援体制が構築されている。	3.6
80	学外における研修会、研究会、学会等への参加やその機会が保証されており、その成果がその後の教育活動に反映されている。	3.0
81	大学院の教育への参加やその機会が保証されており、その成果がその後の研究・教育活動に反映されている。	3.4
82	研究・研修実践の経過・課題が研究紀要等にまとめられ、その後の研究活動の深化に役立っている。	1.0

① 課題

研究活動には消極的

研究活動への関わりがほとんどない状況。

研究活動に割く時間がない

学校の研修制度全体が脆弱である

単科であることもあり、学校業務の業務量から現在研修制度が確立できていない

研修などは年間計画に位置付けられていない。

初任者に対する研修がない。

② 今後の改善方策

年間計画を作成し、各職員に研鑽の機会を作る。

16. 入学選抜

	評価項目	自己評価
83	求める学生像が明確であり、それにふさわしい学生募集方法、入学選抜の時期、会場、回数になっている。	3.0
84	入学者選抜の方法が志願者の多面的な学力、能力、意欲人物を判定するのに適しており、客観的かつ公正である。	2.4
85	入学者の要望に応える資料の配付、各学校等との連携、情報公開（ホームページ、オープンキャンパスなど）を積極的に行い入学選抜試験に反映されている。	3.0
86	入学者選抜学力検査問題の科目、内容、形式、実施方法が客観性、妥当性、信頼性を満たした公正な委員会での協議・作成・管理されている。	2.0

87	入学選抜試験の実施に際して、管理者、教員、事務職員が積極的に参加し、協力している。	5.0
88	合否判定にあたっては、判定基準が明確であり、総合的な観点から客観的かつ公正に判定が行われている。	5.0
89	判定後の受験者への結果報告は、書式、時期、書類の作成が適切にされている。	5.0

① 課題

学力検査の内容に検討が必要

② 今後の改善方策

17. 学生の状況

	評価項目	自己評価
90	各学科への志願状況は満足すべき状況である。	1.0
91	各学科の定員充足率は満足すべき状況である。	1.0
92	各学科の中途退学者数は極めて少ない状況である。	2.0
93	各学科の進級状況は満足すべきであり、留年者数は極めて少ない状況である。	3.0
94	学外実習での評定は客観的、かつ妥当性があり、資格取得に必要な判定がなされ、留年者数が極めて少ない状況である。	3.0
95	学校行事は年間計画に位置づけられ、学園全体、他校、他科との調和がとれている。	2.0
96	学生が主体的に行う行事や活動が保証され、学校全体の教育活動に位置づけられている。	1.0
97	ボランティア活動など、自主的な活動が活発に行われている。	1.1
98	国家試験の合格率や各種資格取得状況が極めて高い。	4.6
99	卒業生の就職状況は満足すべき状況である。	3.7
100	卒業後の就職状況、変更状況等が把握できており、変更の際しても情報提供されている。	2.0

① 課題

定員充足率が低い状態

卒業後の就職変更状況の把握が困難

ボランティア活動などの自発的活動は積極的には行われていない

② 今後の改善方策

定員数の再検討の余地あり。

ボランティア活動の啓発

18. 社会人教育（生涯教育）

	評価項目	自己評価
101	学校は地域社会、関係団体（県士会、研究会）と密接に連携し、地域に開かれた公開講座や関連施設・設備を開放したり、出前授業等による人材派遣を行うなどして地域に貢献している。	1.9

① 課題

② 今後の改善方策

19. 福利厚生

	評価項目	自己評価
102	各種奨学金制度が整備され、学生・保護者に充分周知されている。	5.0
103	新規各種奨学金制度の情報を適正に情報提供され、かつ支援希望者に対して助言・指導を与える。	5.0
104	各種奨学金制度利用に際しては、適切かつ公正に評価され、手続き業務の助言・指導を充分与えている。	5.0
105	学校敷地内に学生の休憩場所や関連設備が整備されており、自動販売機も設置されて利用されている。	2.9
106	学生用の食堂メニューは整備されており、適切な価格とバラエティに富んだメニューでよく利用される。	5.0
107	学生食堂メニューの内容・意見などを定期的にアンケートで情報収集して、メニュー内容の変更等に反映されている。	3.3
108	学生の悩みや相談を受ける体制が整っており、相談する場所の確保されている。	3.0
109	各証明書（成績・在学証明書、駐輪・駐車場利用申請、定期申請書類）に対して適切に配布され、各証明書の発行に際しては記録を徹底している。	5.0

① 課題

学生からの相談を受けるための場所がない
食堂メニューのアンケートなどは未実施

② 今後の改善方策

場所の検討

20. 管理運営

	評価項目	自己評価
110	サービス規程は教職員の実態や要望を取り入れ、適切に運用されている。	5.0
111	教職員の勤務時間や出勤・休暇・出張等の労務管理が適切に行われている。	5.0
112	学園・学校の職階制は業務遂行上円滑に採用しており、教職員の勤労意欲向上に影響を与えている。	3.6
113	多面的評価による職能考課や学生アンケートの結果導入は人事考課に適切に反映されており、客観的かつ公正で、教職員の勤労意欲向上により影響を与えている。	3.0

① 課題

② 今後の改善方策

21. 事務組織と業務

	評価項目	自己評価
114	学園・学校の組織・機構は教育法人としての教育活動を展開するにあたり、効率的かつ機能している。	3.6
115	学園・学校は積極的に広報活動（現状に相応したホームページ・オープンキャンパス・高校訪問等）を展開し、知名度、信頼度の高揚に努め成果を上げている。	4.1
116	学園・学校が保有する個人情報については、その保存場所、保存方法、管理責任者が明確にされており、各種データの管理は組織的に一元化されている。	3.6

① 課題

② 今後の改善方策

22. 危機管理

	評価項目	自己評価
117	学園・学校が保有する個人情報の修正・変更には適切に処理されている。	5.0
118	学園・学校は積極的に情報公開を行っているが、開示請求のあった事案については、公開すべき内容・方法について審議・決定する審議機関を設置し対応している。	5.0
119	各申請・依頼に関する公文書の発行が適切に行われており、また発送先記録・写しなど管理されている。	5.0

120	様々な問題・事故発生に対する未然防止策、発生時の即応体制、事故処理体制など危機管理体制が確立しており、外部に対する窓口が一元化されて組織として対応が可能である。	4.7
-----	--	-----

① 課題

各種危機管理マニュアルが不備である
外部に対する窓口が一元化されていない。

② 今後の改善方策

マニュアルの作成、窓口を一元化する。